

# 未来に対するイメージおよび自尊感情が就職不安に及ぼす影響

## —希望進路が教職のみか否かでの比較—

江本 拓海<sup>1</sup>・児玉真樹子  
(2022 年 1 月 10 日 受理)

### The influence of future image and self-esteem on employment anxiety —Comparison between students whose desired career is teacher and others—

Takumi EMOTO<sup>1</sup> and Makiko KODAMA

**Abstract:** The purpose of this study was to examine the influence of future image, comprising future self image (measured by the future time perspective scale) and future social image, and self-esteem on employment anxiety. In addition, the study examined the difference in these effects between students whose desired career was teacher and others. An online survey was conducted and data were obtained from 91 students (students whose desired career was teacher [ $n = 49$ ] and others [ $n = 42$ ]). The factor analysis results revealed that the future social image scale consisted of three factors: hopefulness, difficulty, and wideness. In addition, the validity and reliability of the future social image scale were confirmed. The results of multiple regression analysis suggested that future social image had an influence on future self image, and these two types of future image had specific effects on employment anxiety. Furthermore, it was suggested that the functions of the two types of future image differed depending on whether the desired career was teacher.

**Key words:** Employment anxiety, Future time perspective, Future social image, Self-esteem

**キーワード:** 就職不安, 未来展望, 未来社会イメージ, 自尊感情

## 問題と目的

全国大学生生活共同連合会（2020）の調査では、就職に対して不安を抱く学生は 72.6%にのぼっている。その内容を見てみると、希望の就職の可否のみならず、職場との相性への不安も含まれている。現代社会を表す用語に VUCA（Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭字語）があり、先が見え難く予測困難であることを指す。このような社会においては未来への見通しが持てないまま就職することとなるため、就職に対する不安が高くなるだろう。

### 就職不安

このような就職に対する不安は「就職不安」と概念化され、研究されてきた。「就職不安」は、職業決定および就職活動段

---

<sup>1</sup>福山市立西深津小学校

階において生じる心配や戸惑い、ならびに就職決定後における将来に対する否定的な見通しや絶望感と定義されている（藤井，1999）。就職不安は就職活動にネガティブな影響を示し、例えば西山（2003）では進路選択に対する自己効力や一般性自己効力などの間に負の相関が報告されている。松田・新井・佐藤（2010）は就職不安に関連する先行研究をレビューし、就職不安研究に導入されるべき新たな視座の一つとして、背景要因を把握し基礎的データを蓄積することを挙げている。そこで、本研究では、就職不安を規定する要因について検討する。

### 未来に対するイメージ

前述の就職不安の定義より、就職不安は就職活動時の不安のみならず就職決定後の将来に対する不安も含まれた概念であるため、就職不安に影響を与える要因の一つとして、未来に対して抱いているイメージが挙げられると考える。未来に対するイメージには、「未来の自分自身」に対するものと、「未来の社会環境」に対するものに分類することができるだろう。前者を表す概念には「未来展望」がある。未来展望とは未来に関する時間的展望のことで、時間的展望は、ある与えられた時に存在する個人の心理学的未来及び心理学的過去の見解の総体と定義されている（Lewin, 1951 猪股訳，1979）。なおポジティブな未来展望は不安と負の相関が報告されている（日淵・齋藤，2007）。

一方、後者を表す概念は管見の限り見当たらない。類似した概念に「個人が社会に対して抱く主観的なイメージ」を指す「社会イメージ」があり、測定尺度も開発されているが（金政，2014）、これは未来に限ったものではない。さらに測定尺度の内容をみると、社会の中での自分自身のイメージなどの自己と社会との関係にかかわる内容であり、社会環境単独のイメージを測定した内容にはなっていない。また未来を含んだ「時間的態度」という概念もあり、過去・現在・未来に対する感情的評価を測定する尺度が開発されているが（都築，1999）、これは特に「社会環境」に特化したものではない。よって「未来の社会環境」に対するイメージを指す概念を本研究では「未来社会イメージ」と呼び、都築（1999）の時間的態度尺度を参考にし、「未来の社会に対する感情的評価」と定義して尺度を開発する。

先行研究および就職不安の定義を踏まえて、未来に対するイメージの2つの概念「未来展望」と「未来社会イメージ」がポジティブなものであれば就職不安は軽減されると想定する。また未来の自分自身にかかわる「未来展望」と、未来の社会環境にかかわる「未来社会イメージ」には関連があると考えられる。人間は社会の中で生活をしているため、未来の社会状況をネガティブなものと予測すれば、その社会の中で生きていく自分の未来もネガティブな予測となるであろう。よって本研究では「未来社会イメージ」が「未来展望」に影響を及ぼすと想定する。

### 自尊感情

未来の社会環境に対する見通しが持ちづらい現在では、ポジティブな未来社会イメージを持つようにする支援は難しい。よって抱いている未来社会イメージに関わらず就職不安を緩和する個人の心理的特性を明らかにすることが、就職前の学生への支援につながる基礎的データとなりうる。そこで本研究では、個人の心理的特性として、いくつかの研究（例えば伊藤・小玉，2005 など）で不安と負の関係があることが報告されている自尊感情に着目する。なお「自尊感情」は、他者との比較により生じる優越感や劣等感ではなく、自身で自己への尊重や価値を評価する程度（Rosenberg, 1965）と定義されている。本研究では自尊感情が高いほど就職不安が低くなると想定する。

### 本研究の目的

以上より、本研究ではまず未来社会イメージを測定する尺度を作成する。次に上述を踏まえた内容を図示した Figure 1 のような、未来展望と未来社会イメージと自尊感情が直接的に就職不安に与える影響、および未来社会イメージが未来展望を介して就職不安に与える影響を検討することを目的とする。

ただし、希望進路によって未来社会イメージが就職不安および未来展望に与える影響が異なる可能性がある。例えば企業は取り巻く社会環境の変化を踏まえて経営方針を都度変えており、その結果、個々人の担当する業務内容も変化するだろう。すなわち企業における業務内容は取り巻く社会状況から受ける影響が大きい。一方、社会環境が変化しても比較的業務内容が変わらない仕事もある。例えば教員の業務内容は企業ほど社会環境の変化による影響は大きくないであろう。以上より、将来就く職業として、比較的社会環境からの影響が小さいと考えられる「教職」のみを考えている学生（以下、「教職選択経済学生」と）と、それ以外の学生（以下、「非教職選択経済学生」と）に分けて、上述の要因間の関係性の違いを検討する。

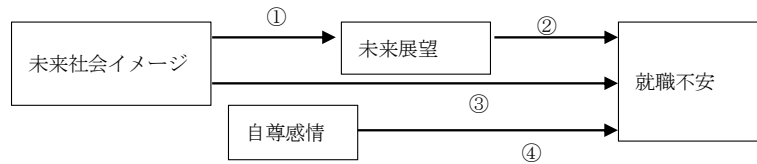


Figure 1. 本研究のモデル図

## 方法

### 予備調査

2019年12月から2020年1月に、大学生23名（学部2年生1名、3年生4名、4年生15名、大学院1年生3名）を対象として質問紙調査を実施した。調査内容は、社会の未来に対するイメージに関する自由記述形式の質問項目であり、「社会の未来についてイメージしてください。そのイメージを形容詞にして一言で表すとすると、どのような言葉が思い浮かびますか。思いつく形容詞を、できるだけ多くお答えください。」と教示した。

その結果、188の回答を得られた。意味が類似する回答を1つの形容詞としてまとめたところ、63の回答に絞られた。その中から、回答者数が4名以上であった項目のみを利用することとし、それぞれについて意味の反する語2つを組み合わせで1項目とした。その結果、16の形容詞対を作成した（Table 1）。

Table 1. 未来社会イメージの測定項目

明るい	—	暗い
不透明な	—	明確な
不安な	—	安心な
楽しい	—	寂しい
科学的な	—	非科学的な
難しい	—	簡単な
苦しい	—	楽な
発展的な	—	非発展的な
面白い	—	つまらない
多様な	—	単一な
美しい	—	汚い
大きい	—	小さい
果てしない	—	限りある
激しい	—	穏やかな
複雑な	—	単純な
素晴らしい	—	残念な

### 本調査

**調査手続きと調査対象** 2020年6月～9月に大学1、2、3年生を対象としてweb調査を実施した。調査の際には、個人情報保護に最大限の注意を払うこと、回答は任意であることを伝えた。91名（男性32名、女性58名、不明1名；1年生1名、2年生24名、3年生66名）より回答を得た。ただし11名に1項目、2名に2項目の欠損値が含まれていたが、データ数を確保するため平均値を欠損部にそれぞれ代入し、分析対象に含めた。希望就職先についての質問（「(幼稚園・小・中・高等学校の) 教員」「(教員以外の) 公務員」「一般就職」「その他」「就職する気がない」<sup>注1)</sup>から選択（複数選択可））に対して、「(幼稚園・小・中・高等学校の) 教員」のみを選択した者49名を「教職選択済学生」と分類し、それ以外の42名を「非

教職選択済学生」と分類した。

**調査内容** フェイス項目（所属する大学および学部、性別）、希望就職先について尋ね、続いて就職不安、未来展望、自尊感情、未来社会イメージを測定した。加えて未来社会イメージの併存的妥当性を検証するため、社会イメージ（金政、2014）も測定した。

就職不安については「就職活動不安」（12項目）、「職業適性不安」（10項目）、「職場不安」（8項目）の3因子から成る藤井（1999）の就職不安尺度を使用した。教示文は「あなたが就職に対して抱く印象についてお聞きます」とし、「全くあてはまらない（1）」から「とてもよくあてはまる（4）」の4段階評定で回答を求めた。

未来展望は白井（1994）の時間的展望体験尺度のうち「目標指向性」（5項目）、「希望」（4項目）を使用した。教示文は「あなたの未来についてお聞きます」とし、「あてはまらない（1）」から「あてはまる（5）」の5段階評定で回答を求めた。

自尊感情は山本・松井・山成（1982）の日本語版自尊感情尺度（10項目）を使用した。教示文は「あなた自身についてお聞きます」とし、「あてはまらない（1）」から「あてはまる（5）」の5段階評定で回答を求めた。

未来社会イメージについては予備調査で作成した16項目（Table 1）を使用した。「未来の社会についてイメージした場合、次の各対のどこに最もよくあてはまりますか」と教示し、7段階評定で回答を求めた。なお Table 1 に示した形容詞対の左側の形容詞を強く感じるほど得点が高くなるように得点化した。

社会イメージについては金政（2014）の社会イメージ尺度の下位因子「成長・向上」、「束縛・不自由さ」、「閉塞・困難さ」、「不可避・義務」からそれぞれ因子負荷量大きい3項目を抜粋した。教示文は「あなたが未来の社会に対して抱くイメージについてお聞きます」とし、「あてはまらない（1）」から「あてはまる（5）」の5段階評定で回答を求めた。

## 結果

### 未来社会イメージ尺度

未来社会イメージの測定項目（16項目）に対して因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行なった。因子数は適合度検定の結果を踏まえて決定した。その際、因子負荷量の絶対値が.40以下の項目および複数の因子において因子負荷量の絶対値が.40以上の項目を削除した。その結果8項目が残り、3因子が抽出された（Table 2）。なお、第1因子において「不安な—安心な」の質問項目のみ因子負荷量が負の値であったため、逆転項目として扱い、得点化の基準を逆にした。各因子の $\alpha$ 係数を算出したところ、第1因子は.73、第2因子は.64、第3因子は.67であった。第2、3因子についてはやや低い値となったが、項目数の少なさに起因するものと推測されるため、一定の内的整合性が確認されたと判断した。各因子に含まれる項目の内容をふまえ、第1因子を「期待」、第2因子を「困難」、第3因子を「壮大」と命名した。各因子の得点はその因子に含まれる項目の合計値を項目数で除すことで算出した。

未来社会イメージ尺度の妥当性検証を目的として、未来社会イメージと社会イメージ（「成長・向上」の $\alpha$ 係数の値は.86、「束縛・不自由さ」は.67、「閉塞・困難さ」は.81、「不可避・義務」は.74）の間で相関分析を行なったところ、Table 3 のとおりとなった。金政（2014）では、「成長・向上」は社会に対するポジティブなイメージ、「束縛・不自由さ」「閉塞・困難さ」はネガティブなイメージ、「不可避・義務」はニュートラルなイメージであるとしている。一方、本研究で新たに作成した未来社会イメージの各因子は、各々に含まれる質問項目と因子間相関の結果を踏まえ、「期待」因子は未来の社会が生きていく上で望ましいものであるというポジティブなイメージ、「困難」因子は未来の社会が複雑で一筋縄ではいかないというややネガティブなイメージ、「壮大」因子は未来の社会が可能性の広がりを持つというポジティブなイメージを表すものと解釈できる。相関分析の結果は未来社会イメージのポジティブな因子と社会イメージのポジティブな因子との間に正の相関、ネガティブな因子との間に負の相関を示し、未来社会イメージのややネガティブな因子と社会イメージのネガティブな因子およびニュートラルなイメージとの間に正の相関を示していたことから、未来社会イメージ尺度の併存的妥当性が確認されたと解釈した。

Table 2. 未来社会イメージの因子分析の結果

	期待	困難	壮大
発展的な—非発展的な	<b>.87</b>	.38	-.14
美しい—汚い	<b>.65</b>	-.19	.15
不安な—安心な	<b>-.62</b>	.20	-.01
複雑な—単純な	.19	<b>.77</b>	.23
難しい—簡単な	-.02	<b>.68</b>	.06
不透明な—明瞭な	-.08	<b>.54</b>	-.22
果てしない—限りある	-.02	.11	<b>.91</b>
大きい—小さい	-.09	.15	<b>.58</b>
因子間相関	期待	—	-.20
	困難	—	.04

Table 3. 未来社会イメージと社会イメージの相関

		未来社会イメージ		
		期待	困難	壮大
社会 イ メ ー ジ	成長・向上	.35 ***	.10	.36 ***
	束縛・不自由さ	-.29 **	.22 *	-.10
	閉塞・困難さ	-.30 **	.36 ***	-.06
	不可避・義務	-.10	.43 ***	.02

\* $p < .05$  \*\* $p < .01$  \*\*\* $p < .001$

#### 基礎統計量

就職不安、未来展望、自尊感情、未来社会イメージの平均と標準偏差を、全体と教職選択済学生／非教職選択済学生別に算出したところ、Table 4 のとおりとなった。さらに教職選択済学生と非教職選択済学生との平均の差異を検討するために  $t$  検定をおこなったところ、就職不安の「職業適性不安」の得点は非教職選択済学生の方が有意に高く ( $t(89) = 3.60, p < .001$ )、一方未来展望の「目標指向性」および「希望」の得点は教職選択済学生の方が有意に高かった (順に  $t(89) = 3.97, p < .001$ ;  $t(89) = 2.67, p < .01$ )。

Table 4. 各変数の基礎統計量

		$\alpha$	全体		教職選択済学生		非教職選択済学生	
			$M$	$SD$	$M$	$SD$	$M$	$SD$
就職不安	就職活動不安	.93	2.81	0.74	2.71	0.55	2.93	0.91
	職業適性不安	.92	2.51	0.77	2.26	0.61	2.81	0.83
	職場不安	.80	2.64	0.59	2.57	0.47	2.72	0.71
未来展望	目標指向性	.82	3.21	0.91	3.55	0.69	2.82	0.98
	希望	.86	3.55	0.95	3.80	0.67	3.26	1.14
	自尊感情	.89	3.15	0.80	3.24	0.72	3.05	0.88
イメ未来社会	期待	.73	4.22	1.09	4.25	0.82	4.18	1.36
	困難	.64	5.37	0.97	5.49	0.87	5.23	1.06
	壮大	.67	5.04	1.41	5.23	1.20	4.82	1.61

## パス解析の結果

教職選択済学生と非教職選択済学生を別々に、Figure 1 のモデルを基にパス解析を行った。まず Figure 1 の②、③、④の関係性について検討するために、未来展望、未来社会イメージ、自尊感情を独立変数、就職不安を従属変数とした重回帰分析（ステップワイズ法、以下同様）を行なったところ、Table 5 のとおりとなった。両学生に共通して、未来展望の「希望」が就職不安の「就職活動不安」に、未来展望の「目標指向性」が就職不安の「職業適性不安」に、「自尊感情」および未来社会イメージの「期待」が就職不安の「職場不安」に対して、それぞれ有意もしくは有意傾向の負のパスを示した。

さらに、希望進路による違いも確認された。特に未来社会イメージに関しては、教職選択済学生でのみ「困難」から「就職活動不安」への正のパスがみられ、非教職選択済学生でのみ「期待」から「就職活動不安」と「職業適性不安」への負のパスがみられた。また、教職選択済学生でのみ「自尊感情」から「職業適性不安」への有意な負のパスがみられた。

さらに Figure 1 の①について確認するため、未来社会イメージの各因子を独立変数、未来展望の各因子を従属変数とした重回帰分析を行なったところ、Table 6 のとおりとなった。両学生に共通して未来社会イメージの「壮大」が未来展望の「目標指向性」に正のパスを示した。また、非教職選択済学生でのみ、未来社会イメージの「期待」から未来展望の全因子への正のパスがみられた。

Table 5 未来展望、未来社会イメージ、自尊感情を独立変数、就職不安を従属変数とした重回帰分析の結果

独立変数		従属変数								
		就職不安								
		就職活動不安			職業適性不安			職場不安		
未来 展望	目標指向性	-0.19	/	—	-0.39 **	/	-0.23 †	—	/	—
	希望	-0.48 **	/	-0.47 **	—	/	—	—	/	—
自尊感情		—	/	—	-0.30 *	/	-0.22	-0.34 **	/	-0.32 *
イ未来 メー 社会	期待	—	/	-0.39 **	—	/	-0.47 **	-0.28 †	/	-0.50 **
	困難	0.24 *	/	—	—	/	—	—	/	—
	壮大	—	/	—	—	/	—	—	/	—
R <sup>2</sup>		0.46 ***	/	0.63 ***	0.30 ***	/	0.68 ***	0.27 ***	/	0.58 ***
Adj R <sup>2</sup>		0.42 ***	/	0.61 ***	0.27 ***	/	0.65 ***	0.24 ***	/	0.56 ***

注1.表中の数値は、教職選択済学生／非教職選択済学生の順で、標準偏回帰係数の値を示す。

注2.† $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

Table 6 未来社会イメージを独立変数、未来展望を従属変数とした重回帰分析の結果

独立変数		従属変数					
		未来展望					
		目標指向性			希望		
イ 未来社会イメージ	期待	—	／	.50 ***	—	／	.65 ***
	困難	—	／	—	—	／	—
	壮大	.32 **	／	.31 *	—	／	.18
	$R^2$	.10 *	／	.46 ***	—	／	.56 ***
	Adj $R^2$	.08 *	／	.44 ***	—	／	.53 ***

注1.表中の数値は、教職選択済学生／非教職選択済学生の順で、標準偏回帰係数の値を示す。

注2.† $p < .10$ , \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

## 考察

### 未来社会イメージの測定尺度

本研究では「未来の社会に対する感情的評価」を測定する、信頼性と妥当性の確認された未来社会イメージ尺度を開発した。これは、未来の社会に対するポジティブなイメージである「期待」と「壮大」とややネガティブなイメージである「困難」の3因子8項目から構成され、未来の社会に対するイメージの異なる側面を同時に簡潔に測定することができることから有用性の高いものと言えよう。金政（2104）は社会の中での自己イメージなどの質問項目を含んだ社会イメージ尺度を開発し、社会イメージと未来展望の関連を検討した。その結果、社会イメージのネガティブな側面である「束縛・不自由さ」と未来展望の「希望」との間に、社会イメージのネガティブな側面である「閉塞・困難さ」と未来展望の「目標指向性」および「希望」との間に負の関係がみられた。一方で本研究では、未来の社会環境単体に対するイメージを捉えている未来社会イメージのネガティブな側面である「困難」は未来展望に有意なパスを示さなかった（Table 6）。この結果は、本研究で新たに開発した未来社会イメージ尺度と、既存の社会イメージ尺度が異なるものを測定していることを表していると解釈できる。

### 希望進路が教職のみか否かによる未来に対するイメージ、自尊感情、就職不安の状態の違い

希望進路が教職のみか否かで分類し、各要因の得点の差異を確認したところ（Table 4）、希望進路が教職のみの学生（教職選択済学生）の方がそうでない学生（非教職選択済学生）より、未来展望はよりポジティブで、就職不安（職業適性不安）は低かった。この結果の解釈として2つ考えられる。まず、教職選択済学生は教職を将来の進路としてほぼ決めている可能性が高いが、非教職選択済学生には、教職以外の職業を希望している人のみでなく職業未決定の人も含まれている。これを踏まえると、教職への職業適性に不安を感じておらず、自身の教員としてのポジティブな見通しをもっている人が、教職を将来の職業として選択しているという解釈ができる。もう1つは、教職は一般企業等と比べると社会の変化による影響が少ないことが反映されたという解釈である。未来社会イメージの各因子の得点は、希望進路が教職のみとしている群とそうでない群との間で有意差はみられなかったが、そのうちの「困難」因子の得点はいずれの群でも平均値が5以上（7点満点）と高く、未来の社会環境を複雑で難しく不透明だと感じている傾向が確認された。このような未来の社会環境のイメージがあるため、特に将来の進路を教職と決めていない群ではポジティブな未来展望が持ちづらく、どのような職務内容を担当するかが見えず職業適性不安が高くなる傾向になったとも解釈できる。

### 未来に対するイメージと自尊感情が就職不安に与える影響

本研究で想定しているモデル Figure 1 の各パスについて、パス解析の結果（Table 5, 6）を基に、希望進路として教職のみ考えている学生とそれ以外の学生の共通点および相違点について考察する。

**未来展望が就職不安に与える影響** 未来展望から就職不安へのパス（Figure 1 の②のパス）としては、希望進路が教職のみか否かにかかわらず「希望」が「就職活動不安」に、「目標指向性」が「職業適性不安」に負のパスを示した。未来展望の「希望」は未来を切り拓く自信などといった漠然とした自身の未来に対するイメージを、「目標指向性」は将来計画や目標があるといった比較的明瞭な自身の未来に対するイメージを測定している。小菅（2019）は、学生の就職活動の維持や質の向上にとって、時期に則した具体的な目標の設定の重要性を述べている。これを踏まえると未来展望のうち「希望」よりも「目標指向性」の方が就職活動不安を抑制すると推測されるが、そのような働きは本研究では確認されなかった。下村・白井・川崎・若松・安達（2007）は、「なりたい」自分を展望し目標を立ててそれに向けてアプローチする重要性を述べている一方、そのようなアプローチが誰にでも適合するとは限らず、目標を固定的に捉えて実現不可能なプランを立てることで、かえって心理不適応を招く可能性があるとも述べている。この指摘と本研究の結果をふまえると、就職に関する不安の緩和には、具体的な目標を設定するよりも、将来を切り拓く自信といったポジティブな個人の将来へのイメージをもつことが大切であると言えよう。なお未来展望と就職不安との関係において、希望進路が教職のみか否かによる相違点はみられなかった。

**未来社会イメージが就職不安に与える影響** 未来社会イメージから就職不安へのパス（Figure 1 の③のパス）としては、希望進路が教職のみか否かにかかわらず「期待」から「職場不安」に負のパスがみられた。一方で、他の就職不安の因子に対



する「期待」の負のパスは、非教職選択済学生でのみみられた。教職は社会状況から業務内容が受ける影響が比較的小さいため、希望進路として教職のみを考えている学生にとってはそうでない学生と比べると、未来社会イメージから就職不安への影響が小さいと推測されるため、このような結果になったのであろう。しかし、教職選択済学生でのみ「困難」が「就職活動不安」に正のパスを示した。これは前述の想定とは反対の結果であった。教職志望者のうち未来の社会をより不透明で複雑に捉えている者は、教員採用試験の内容に将来の社会の状況等を踏まえたものが含まれるかもしれない等と感じ、不安を感じるのかもしれない。

**自尊心が就職不安に与える影響** 自尊心から就職不安へのパス (Figure 1 の④のパス) としては、希望進路が教職のみか否かにかかわらず「職場不安」に対する負のパスがみられた。従来から就職活動の成功要因の一つに自尊心が挙げられており (鶴田, 2018), 本研究の結果もそれに矛盾しない。一方、「職業適性不安」に対する負のパスは教職選択済学生にのみみられた。これは自分自身を価値あるものと認識することで職業適性に関する不安が抑制されることを意味する。非教職選択済学生の場合は未来社会イメージの「期待」が「職業適性不安」を抑制する働きがみられたが教職選択済学生ではそのようなパスがみられなかったことを踏まえると、教職選択済学生は未来社会イメージからの影響が小さいがゆえに内的な資源である自尊心が職業適性に関する不安に与える影響が比較的大きいのかかもしれない。

**未来社会イメージが未来展望を媒介して就職不安に与える影響** 未来社会イメージから未来展望へのパス (Figure 1 の①のパス) については、希望進路が教職のみか否かにかかわらず「壮大」が「目標指向性」に正のパスを示した。これは未来の社会に対して可能性の広がりがあるようにイメージすると、自身の未来に対して明瞭でポジティブなイメージを抱くようになることを意味する。「目標指向性」は、この因子に含まれる質問項目 (「将来のためを考えて今から準備していることがある」など) から、実現可能性を伴った自身の未来に対するイメージであると言えるため、未来の社会に対して可能性の広がりイメージすることでそこに生きる自身の実現可能性も広がるように感じ、自身の未来に対する明瞭なイメージをポジティブに捉えるようになるのだろう。一方、非教職選択済学生でのみ未来社会イメージの「期待」が未来展望の2つの因子に正のパスを示した。これは未来の社会に対して望ましいものであるというイメージを抱くことで自身の未来をポジティブにイメージするようになることを意味する。先述のように非教職選択済学生は比較的未来の社会状況から受ける影響が大きいと推測されるため、未来の社会に対する望ましさが自身の未来の望ましさに反映されやすいのかもしれない。

前述の未来展望が就職不安に及ぼす影響を踏まると、両学生ともに未来社会イメージの「壮大」が「目標指向性」を媒介して「職業適性不安」に負の影響を与えることが示唆された。言い換えれば未来の社会に対して可能性の広がりイメージすることで間接的に職業適性に関する不安を抑制することができることが示唆された。加えて、非教職選択済学生では「期待」が「目標指向性」を媒介して「職業適性不安」に負の影響、「希望」を媒介して「就職活動不安」に負の影響を与えることが示唆された。このことから、特に教職以外も進路先として検討している学生に対しては、未来の社会の望ましい側面に気づかせることが就職に関する不安の緩和に有効と言えるだろう。

## 本研究の意義

本研究では初めて未来に対するイメージを自己に対するものと社会に対するものとに分けて、それらの関係性およびそれらが就職不安に及ぼす影響を検討した。さらにその関係性を志望する進路別に検討した。その結果、未来社会に対するイメージが未来の自己イメージ (未来展望で測定したもの) を規定することが示唆され、また2種類の未来に対するイメージ (未来の社会と自己のそれぞれに対するイメージ) はそれぞれ就職不安に直接的もしくは間接的な影響を及ぼすことが示唆された。さらに志望する進路が比較的社会からの影響が少ないもの (教職) か否かによって、2種類の未来に対するイメージの働きが異なることも示唆された。これらのことから、就職不安について検討する際、今後の社会環境に対して抱くイメージも考慮する必要があることが確認された。さらに、その際に利用可能な、信頼性、妥当性の確認された未来社会イメージの測定尺度も本研究で開発できた。

## 今後の課題

本研究の課題としては以下の2点が挙げられる。1点目は、将来の希望進路として教職のみを考えている者とそれ以外の者とに分けたが、本来は、希望進路をより具体的に分類 (例えば一般企業、教職、教職以外の公務員、未定など) する必要がある点である。本研究では教職を第1志望とする学生以外のデータが少なく、さらに全データ数も少なかったため、こ



のような分類による比較しかできなかった。多様な進路を希望する学生のデータを収集し、同様の分析を行うことで、それぞれの希望就職先に応じた就職不安の低減に寄与する基礎データが提供できるだろう。

2 点目は、本研究の調査時期（2020 年）が新型コロナウイルスの影響で社会状況が例年と異なっていた点である。2020 年は新型コロナウイルスの影響で内定取り消しや新入社員の募集そのものが無くなるケースもあり、例年よりも就職不安が高く、未来社会イメージがネガティブである可能性がある。よって新型コロナウイルスの収束後も本研究の結果が適用可能であるか確認する必要があるだろう。

## 謝辞

本論文を執筆するにあたり、調査にご協力いただきました大学生および大学院生の皆様に深く感謝申し上げます。

## 注

注 1) 「就職する気がない」の選択者はいなかった。

## 引用文献

藤井 義久 (1999). 女子学生における就職不安に関する研究 心理学研究, 70, 417-420.

日潟 淳子・齋藤 誠一 (2007). 青年期における時間的展望と出来事想起および精神的健康との関連 発達心理学研究, 18, 109-119.

伊藤 正哉・小玉 正博 (2005). 自分らしくある感覚（本来感）と自尊感情が well-being に及ぼす影響の検討 教育心理学研究, 53, 74-85.

金政 祐司 (2014). 自己ならびに他者への信念や期待が社会へのイメージと将来への時間的展望に及ぼす影響 社会心理学研究, 30, 108-120.

小菅 清香 (2019). 大学生の職業探索過程における目標の構造とその役割—就職活動目標に着目して— 横浜商大論集, 52, 127-150.

Lewin, K. (1951). *Field theory in social science*. New York: Harper & Brothers. (レヴィン, K. 猪股佐登留(訳)(1979). 社会科学における場の理論 (増補版) 誠信書房).

松田 侑子・新井 邦二郎・佐藤 純 (2010). 就職不安に関連する研究の動向 筑波大学心理学研究, 40, 43-50.

西山 薫 (2003). 就職不安とプロアクティブパーソナリティ特性および自己効力に関する研究 人間福祉研究, 6, 137-148.

Rosenberg M. (1965). *Society and the adolescent self-image*. Princeton: Princeton University Press.

下村 英雄・白井 利明・川崎 友嗣・若松 養亮・安達 智子 (2007). フリーターのキャリア自立：時間的展望の視点によるキャリア発達理論の再構築に向けて 青年心理学研究, 19, 1-19

白井 利明 (1994). 時間的展望体験尺度の作成に関する研究 心理学研究, 65, 54-60.

都筑 学 (1999). 大学生の時間的展望—構造モデルの心理学的検討— 中央大学出版部

鶴田 美保子 (2018). 大学生の就職活動を成功させる要因：展望論文 金城学院大学論集 人文科学編, 15, 109-119.

山本 真理子・松井 豊・山成 由紀子 (1982). 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.

全国大学生生活共同連合会 (2020). 第 55 回 学生生活実態調査概要報告. Retrieved from <https://www.univcoop.or.jp/press/life/report55.html>